

イスラエル・アメリカ、イランによる軍事衝突の拡大に関する声明

令和8年2月28日、イスラエルおよびアメリカによるイランへの大規模な軍事攻撃が開始され、イランもまた米軍基地およびイスラエルへの報復攻撃を行うなど、戦火は中東全域に広がっています。数多くの市民が命を落とし、学校や病院を含む市街地が次々と破壊されているとの報に接し、私たち大本・人類愛善会は、この事態を深く憂慮し、一日も早く戦争が終結するよう祈念いたします。

武力の応酬は、罪のない市民の命と暮らしを奪います。核・軍事施設のみならず民間の建物や生活空間にまで被害が及ぶ今回の攻撃は、地域社会のみならず人類全体の安全を脅かすものであります。私たちは、すべての関係国に対し、暴力の連鎖を断ち切り、冷静な対話へ立ち返ることを強く求めます。

大本・人類愛善会の理念とする「人類愛善」「万教同根」の精神に照らせば、イスラエル・アメリカ、イランをはじめ、いずれの国の人々も等しく「神の子」であり、その命は何ものにも代えがたい尊さを持っています。宗教・民族・国籍の違いを超えて、人類は本来互いを尊重し、共に生きる存在であるべきと考えます。

わが国日本は、かつて戦争の惨禍を経験し、その深い反省のもとに「戦争の放棄」を掲げ、世界で唯一の被爆国として核の脅威に警鐘を鳴らし、平和国家として歩んでまいりました。武力・暴力による解決ではなく、対話と協調によって平和を築くという精神は、今日の国際社会においても重要な指針であります。

大本教祖出口王仁三郎（人類愛善会初代総裁）は、「神より見れば一人の生命も大地より重しとなしたもう。その重きところの生命をとり合う戦いこそ、悪の骨頂である。」（『道の栞』）と説きました。いかなる理由があるにせよ命を奪い合うことは悪である。この言葉は、全人類の普遍の真理であると信じます。

私たち大本・人類愛善会は、すべての関係国と世界の人々が普遍的な道義に立ち返り、対話による恒久平和の実現に向けて歩まれることを、ここに厳粛に訴えます。

令和8年3月17日

大本・人類愛善会